基本目標 6

活力と魅力あふれる元気なまち

【産業】

《基本施策》

1．農業の振興

2．商工業の振興

3．雇用環境の充実

4．観光振興・地域ブランドの充実

基本施策 6－1 農業の振興

現状と課題

●本町は、岡山県南西部に位置し、温暖な気候を活かして稲作・果樹を主体とする農業生産を展開してきましたが、元来、本町の農業は、1戸当たりの耕地面積が小さく、基盤整備も遅れており不整形なほ場が多いため、担い手への利用集積等は進んでいません。

●商工業の発展を背景として兼業化が進みましたが、近年、稲作等の土地利用型農業を中心とした農業従事者の担い手不足と高齢化が深刻化しています。

●認定農業者の増加に努めてはいますが、経営規模が十分でなく、そのため経営改善計画の策定が難しい状況です。また、農業従事者の高齢化や担い手が不足している中で、農地の荒廃地化が進んでいる状況となっています。

●地元の地産地消を進める団体や生産企業等により、独自の商品開発を行っています。

●本町がブランド化を目指す「里庄まこもたけ」等の品目について、地産地消を進めるため学校給食や地元飲食店での利用を推進しています。また、「まこもたけ」等の高収益作物の特産品化のため、販売ルートの拡大や生産者の経営所得安定対策等の支援を行っています。

●荒廃農地の増加によりイノシシ、ヌートリア等の有害鳥獣による被害が深刻化していることから、対策が必要となっています。

基本方針

販売農家を認定農業者に導き、耕作放棄地等を利用した農業の経営規模拡大と担い手の育成を推進します。

「まこもたけ」をはじめとした、町内の農産物のブランド化を進め、多様な販売ルートの拡大を図ります。

評価指標

指　標	現状値	前期目標値
認定農業者数	12人（令和元年度）	15人（令和6年度）
まこもたけ作付面積	24,500㎡（令和元年度）	26,000㎡（令和6年度）

個 別 施 策

（１）農業の担い手の育成・確保

井笠農業普及指導センター・農協等の関係機関と連携して、経営改善についての指導等を通じ、認定農業者の掘り起こし及び育成に努めます。また、耕作放棄地や遊休農地を活用した農業の規模拡大や「坊ちゃんかぼちゃ」、「まこもたけ」等の収益性の高い作物の作付を促し、農家の所得向上を推進しながら、認定農業者の確保を図ります。

【主な取組】

◆担い手の確保

（２）生産基盤の拡充

農業委員、農地利用最適化推進委員と連携し、営農が継続できる農家の把握に努め、担い手への農地の集積・集約化を推進します。

町内における重点地域を指定し、人と農地に関する地域の話し合い（人・農地プラン実質化）を活性化します。

【主な取組】

◆農地の集積・集約化

◆優良農地の確保・保全

（３）特色ある地域農業の振興

農産物の付加価値を高めるため、農商工連携を進め、食品産業等様々な業種・団体と協力し、情報提供や専門機関の紹介等を通じて、新たな商品開発への取組に対して、支援を行います。また、商品等のPRを継続的に行います。

生産者と消費者との結びつきを強化し、販路の拡大や農業関連事業の振興による地域の活性化を図るため、学校給食における地域農産物の利用を継続して行い、地元商店と連携したスタンプラリーの継続、椿生活交流グループと連携した新規メニューの開発・普及等の地産地消に関連する事業に対し、必要な支援を行います。

【主な取組】

◆商品開発への支援の強化

◆地産地消の推進

（４）地域に合った営農体系の確立

「まこもたけ」については、新規生産者への効率的な収穫方法、買取先の紹介等の積極的な情報提供を行います。また、生産者同士の情報交換の場を提供し、情報共有による町全体の生産向上に向けた支援を行います。その他、収益性が高い作物については、地域農業再生協議会において品目を定め、国の交付金等を活用しながら、産地化を推進します。

【主な取組】

◆農業経営安定化と産地化

（５）有害鳥獣の被害防止

自分で農作物を守るという自己防衛が何より必要であるため、防護柵の設置を支援します。加えて、有害鳥獣の駆除捕獲に対する補助を継続し、防御と捕獲の両面からの農産物被害抑制を図ります。

【主な取組】

◆有害鳥獣の被害防除補助　　◆有害鳥獣の駆除への補助

まこもたけ栽培体験

基本施策 6－2 商工業の振興

現状と課題

●本町を含む浅口地域においては、大都市圏にみられるような経済波及効果は感じられず、中・小規模事業者においては、事業主の高齢化も進み、厳しい経営環境が続いています。

●本町においては、「里庄町小規模企業対策資金保証融資制度」をはじめとした融資制度の普及に努めています。

●平成28年度から、浅口市と共同で「創業支援等事業計画」を策定し、創業環境の充実を図っています。同じく、中小企業の販路開拓を支援するための補助金を創設しています。

●国の生産性向上に向けた取組に呼応して、商工会をはじめとした認定支援機関と連携し、中小企業の設備投資に係る固定資産税の減免措置を講じています。また、平成30年度から、既存工場の町外転出の防止と新規工場立地を促進するため、工場立地法で定める工場敷地内の土地利用制限を緩和しています。

基本方針

商工業については、商工会等と連携し、地域に密着した商工業の振興に努めるとともに、特産品開発等、魅力ある地域資源の掘り起こしに努めます。

また、工作機械、電子部品、食品加工、医薬品等を中心とした地域の基幹産業の事業拡大等を支援するとともに、商工会等と連携し、中小企業の経営支援及び創業支援等による地域経済の活性化に努めます。

評価指標

指　標	現状値	前期目標値
製造業事業所数	33事業所（平成30年度）	38事業所（令和6年度）
製造品出荷額等	30,471,790万円（平成29年）	31,000,000万円（令和5年）

個 別 施 策

（１）商工業の振興

商工会、(公財)岡山県産業振興財団、地元金融機関等と連携して、経営発達支援や販路開拓支援、金融支援等、既存企業の持続的な発展に向けた取組を支援します。また、産業文化祭をはじめ、あらゆる機会を通して、企業間での交流を促進し、新たなニーズの掘り起こしに努めます。

新規の企業立地や既存企業の設備投資を促すため、国や県の施策も活用し、企業のニーズを踏まえた、効果的な支援を行っていきます。また、新規創業者の抱える課題に応じた支援を行うため、関係団体と連携して、適時適切な情報提供を行います。

【主な取組】

◆里庄町企業立地促進奨励金
◆里庄町新商品開発・販路開拓支援事業
◆浅口市・里庄町創業支援等事業計画

産業文化祭

基本施策 6－3 雇用環境の充実

現状と課題

●町内企業を紹介する「里庄はたらくガイド」を、平成28年3月、平成30年7月に作成し、町内や県内の高校、大学等へ配布しています。
●産業文化祭等のイベントにおいて企業紹介の充実を図り、町内外に町内企業を知ってもらえるよう周知に努めています。
●今後も若者の都市への人口流出を防ぐため、積極的に雇用環境の充実に努める必要があります。

基本方針

雇用環境の充実について、若者の都市への人口流出を防ぐため、就職ガイダンス等を積極的に行うほか、魅力ある町内企業のPRに努め、町内企業への就職を促進します。

評価指標

指　標	現状値	前期目標値
高校生就職ガイダンス・いかさへの町内の参加事業者数	2事業所（令和元年度）	6事業所（令和6年度）

個別施策

（1）雇用環境の充実

高梁川流域、井笠地域で連携した就職ガイダンスを引き続き実施し、若者に地元企業を知ってもらうとともに地元への就職を促進します。

求人情報発信支援事業補助金の交付により、町内企業への雇用促進を目的とした企業支援を行います。

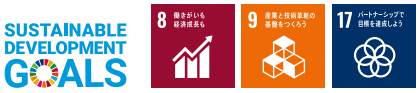
中学生への企業紹介や産業文化祭における企業紹介を充実させる等、あらゆる機会を利用し町内外の方に町内企業を知ってもらうよう周知に努めます。

【主な取組】

◆いかさ就職ガイダンスの実施　　◆里庄町求人情報発信支援事業

基本施策 6－4 観光振興・地域ブランドの充実

現状と課題



●本町は、豊かな自然があり、仁科芳雄博士や小川郷太郎先生等の偉人を輩出してきた歴史があります。近年では、「里庄まこもたけ」等の地域の特産品づくりが進められています。

●平成12年に誕生したイメージキャラクター「里ちゃん」、平成28年に誕生したまこもたけキャラクター「まこりん」は、各種イベントで活躍し、人気を得ています。

●平成30年7月豪雨災害により、主要な観光資源である「里庄美しい森」が閉鎖となり、観光客数の減少がみられています。今後は広域連携による誘客促進により観光客数の維持・拡大を図っていく必要があります。

●観光PR活動として、ホームページでの観光情報の提供、観光パンフレットの作成等、積極的な情報発信を実施しています。また、高梁川流域連携中枢都市圏や井笠広域圏での観光事業に参加し、広域での観光誘客の推進に努めています。

●食品加工や電子部品、医薬品等、本町で製造される製品は全国に普及しているものの、「里庄町産」として注目を得る機会はあまりないのが現状です。

●行政、町民、企業のすべての人々が「里庄町」に関係していることを認識し、里庄町のブランドイメージを形づくっていることを知ることが大切です。

基本方針

県や高梁川流域・近隣市町等との広域連携での取組を中心に、広域での観光誘客を促進します。

農業、商工業の協働による地域ブランドの振興を図るほか、地場産業の付加価値の向上を目指し、地域内連携や人材の確保、事業継承等、一体的な取組を推進します。

里庄町のブランドイメージを高めることにより、観光客や移住者に限らない、里庄町と継続的なつながりを持とうとする「関係人口」を増やしていきます。

評価指標

指　標	現状値	前期目標値
観光入込客数	5,923人（平成30年末）	10,000人（令和6年末）
「まこもたけ」年間出荷額	735万円（平成30年度）	780万円（令和6年度）

個別施策

（１）観光・交流推進体制の整備

町単独での観光推進は効果の広がりが期待できないため、今後は他自治体や広域連携での取組を中心に、広域での観光誘客を促進します。

ホームページや観光イベント、岡山県アンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」等を活用したＰＲを行い、本町のアピールポイントを積極的に情報発信します。

【主な取組】

◆広域連携を活かした観光事業の参加
◆観光ＰＲ活動の推進

（２）地域ブランドの育成

「里庄まこもたけ」や果樹類等の地場産品のブランド化を目指すため、生産者等が農協や民間事業者と連携して行う商品開発や販路開拓、６次産業化等の取組を支援します。

また、本町の地域ブランドを担う産業への従業者を確保するため、担い手の育成、事業の承継等を支援し、地場産業への雇用の促進を図ります。

【主な取組】

◆「里庄まこもたけ」等の普及拡大
◆農業の６次産業化
◆販路開拓支援事業
◆求人情報発信支援事業

１２町村フェスティバル